

# I 自然公園等利用者数の概要

## 1 自然公園利用者数の推移

図 I-1・表 I-1 は、昭和 25 年から平成 31/令和元年までの国立公園、国定公園及び都道府県立自然公園の利用者数を示したものである。

自然公園全体の利用者数をみると、昭和 50 年から昭和 58 年は、おおむね横這いの状況であった。昭和 59 年から徐々に増加の傾向を示し、平成 3 年には 10 億人を超えた。その後は減少傾向にある。平成 31/令和元年の利用者総数は、前年に比べ 1.3% 減の 8 億 9 3 1 1 万人であった。

年間利用者数を各公園の種類別にみると、34 の国立公園利用者数が 3 億 6, 9 1 5 万人(対前年比 0.6% 減)、56 の国定公園利用者数が 2 億 8, 7 5 8 万人(同 0.2% 減)、311 の都道府県立自然公園利用者数が 2 億 3, 6 3 8 万人(同 3.7% 減)となっている。

## 2 利用者数の多い国立公園

表 I-2 は、全国 34 の国立公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かったのは富士箱根伊豆の 1 億 3, 2 5 2 万人で、国立公園利用者数全体の 35.9% を占めており、以下、瀬戸内海 4, 4 5 4 万人、上信越高原 2, 3 7 2 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 2 億 9, 5 3 4 万人となり、国立公園利用者数全体の 80.0% を占めている。

なお、上位の国立公園は、都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

## 3 利用者数の多い国定公園

表 I-3 は、全国 56 の国定公園のうち、利用者数の多い 10 公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった国定公園は、琵琶湖の 3, 6 9 1 万人で、国定公園利用者数全体の 12.8% を占め、以下、玄海 2, 8 9 7 万人、八ヶ岳中信高原 1, 7 1 9 万人の順となっている。

これらのうち上位 10 公園についてみると、その合計利用者数は 1 億 6, 7 6 5 万人となり、国定公園利用者数全体の 58.3% を占めている。

なお、上位の国定公園は、国立公園と同様に都市部から比較的交通の便の良い場所に位置している。

## 4 国立公園、国定公園利用者数の増減

### (1) 利用者数が増加した国立公園

34 の国立公園中 15 公園で前年と比較して利用者数の増加がみられた。増加率が高かった上位 3 公園は、順に三陸復興(対前年比 45.1% 増)、やんばる(同 23.0% 増)、釧路湿原(同 16.4% 増)となっている。

[表 I-4-(1) 参照]

## (2) 利用者数が減少した国立公園

利用者数が前年と比較して減少した国立公園は19公園で、減少率が高かった3公園は、順に小笠原(同31.6%減)、阿蘇くじゅう(同9.5%減)、雲仙天草(同8.5%減)となっている。

〔表I-4-(2)参照〕

## (3) 利用者数が増加した国定公園

56の国定公園中32公園で前年と比較して利用者数の増加がみられた。増加率が高かった上位3公園は、順に暑寒別天売焼尻(同47.5%増)、剣山(同19.3%増)、若狭湾(同18.3%増)、となっている。

〔表I-4-(3)参照〕

## (4) 利用者数が減少した国定公園

利用者数が前年と比較して減少した国定公園は24公園で、減少率が高かった3公園は、順に明治の森高尾(同52.4%減)、九州中央山地(同34.0%減)、壱岐対馬(同23.6%減)となっている。

〔表I-4-(4)参照〕

## 5 利用者数の多い都道府県立自然公園

表I-5は、全国311の都道府県立自然公園のうち、利用者数の多い上位10公園についてとりまとめたものである。

最も利用者数の多かった公園は水郷(三重県)の1,351万人であり、以下、日本平・三保の松原(静岡県)の1,292万人、大宰府(福岡県)の1,142万人となっている。

## II 自然公園利用者数調

この調査は、暦年毎の自然公園の利用者数を把握するため、都道府県からの報告に基づいて集計したものである。〔表II-1~8参照〕

なお、国立公園内におけるビジターセンター等施設の入館者数は、主に環境省地方環境事務所からの報告によりとりまとめたものである。〔表II-9参照〕

## III 長距離自然歩道利用者数調

長距離自然歩道は、優れた自然環境を有する自然公園や文化財などを結ぶ長距離にわたる歩道で、自然や歴史などを訪ねることにより、健全な心身を育成し、自然保護に対する理解を深めることを目的としたものである。

この調査は、自然公園と同じく都道府県からの報告に基づき、暦年毎の各長距離自然歩道の利用者数を集計したものである。

平成31/令和元年の長距離自然歩道利用者数は7,439万人であり、対前年比4.1%減となっている。各自然歩道別に利用者数をみると、北海道34万人（対前年比8.5%減）（※）、東北967万人（対前年比0.8%増）、東北太平洋岸は今年度の報告なし、首都圏785万人（同4.7%減）、東海785万人（同12.5%減）、中部北陸1,009万人（同14.5%減）、近畿2,424万人（同0.3%増）、中国333万人（同12.9%増）、四国252万人（同5.2%増）、九州849万人（同6.8%減）となっている。

〔表Ⅲ－1～10参照〕

（※）北海道自然歩道は平成31年現在整備中であり、利用者数は供用を開始している一部のもの。

## IV 参考

### 1 新宿御苑入苑者数

この調査は、国民公園のうち新宿御苑について新宿御苑管理事務所の報告により、年度毎の入苑者数を取りまとめたものである。

平成31/令和元年度の入苑者数は約219万人（対前年比5.3%減）となっている。

〔表Ⅳ－1参照〕

### 2 休暇村利用者数

この調査は、（一財）休暇村協会の報告により、年度毎の利用者数を取りまとめたものである。

平成31/令和元年度の休暇村の利用者数は約376万人（前年比1.8%減）となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約134万人（同1.2%減）、その他の利用者数は約243万人（同2.2%減）であった。

〔表Ⅳ－2参照〕

### 3 国民宿舎利用者数

この調査は、（一社）国民宿舎協会（平成13年度分までは各都道府県）の報告により、年度毎の公営の国民宿舎の利用者数を取りまとめたものである。

平成31/令和元年度の国民宿舎の利用者数は約265万人（同22.7%減）となっている。その内訳をみると、宿泊利用者数は約79万人（同20.3%減）、休憩利用者は約186万人（同23.7%減）であった。

〔表Ⅳ－3参照〕

### 4 全国温泉地宿泊利用者数

この調査は、各都道府県の報告に基づき、年度毎の温泉地の延べ宿泊利用者数を取りまとめたものである。

平成31/令和元年度における延べ宿泊利用者数は約1億2,653万人（同3.1%減）となっている。

〔表Ⅳ－4参照〕

## 5 平成31/令和元年の気象概況

### <天候の概要>

#### 平成31/令和元年の天候の特徴

- ① 年平均気温は、全国的にかなり高かった。特に冬の沖縄・奄美、秋の東・西日本は1946年の統計開始以来最も高くなった。
- ② 年降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、東・西日本太平洋側が多かった。一方、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。北日本太平洋側と西日本日本海側は平年並だった。
- ③ 年間日照時間は、北日本、東日本日本海側でかなり多く、西日本日本海側が多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。東・西日本太平洋側では平年並だった。
- ④ 冬は、全国的に東日本以西では暖冬となり、西日本日本海側では記録的な少雪となった。
- ⑤ 夏は、気温の低い時期もあったが、西日本を除き夏の平均気温は高かった。
- ⑥ 春と秋は、暖かい空気に覆われ、全国的に気温が高くなった。
- ⑦ 9月上旬には、関東地方に台風15号が上陸、千葉県を中心に記録的な暴風となった。
- ⑧ 10月中旬に台風第19号が伊豆半島に上陸、関東地方から東北地方を北上し、広い範囲で記録的な大雨、河川の氾濫が相次ぐなど大きな被害が発生した。
- ⑨ 上記の他にも、8月下旬の九州北部地方や10月下旬の関東甲信地方と東北地方など、夏から秋にかけて、各地で記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生した。

#### 冬（平成30年12月～平成31年2月）

- ① 気温は、東日本以西では冬の平均気温がかなり高く、特に沖縄・奄美は記録的な暖冬となった。北日本では平年並だった。
- ② 降水量は、北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美は多かった。西日本では平年並だった。
- ③ 降雪量は、北・東・西日本日本海側はかなり少なく、西日本日本海側は記録的な少雪となった。
- ④ 日照時間は、西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。一方、北日本太平洋側は多かった。北・東日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。

#### 春（平成31年3月～令和元年5月）

- ① 気温は、北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。
- ② 降水量は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と西日本で少なかった。一方、沖縄・奄美では多く、東日本では平年並だった。
- ③ 日照時間は、北・東・西日本日本海側と北日本太平洋側では、記録的に多く、沖縄・奄美では平年並だった。

#### 夏（令和元年6月～8月）

- ① 気温は、北・東日本と沖縄・奄美で高く、西日本では平年並だった。
- ② 降水量は、西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。北日本と東日本日本海側では平年並だった。
- ③ 日照時間は、沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本では少なかった。北日本と東日本日本海側では平年並だった。

秋（令和元年9月～11月）

- ①気温は、東・西日本では記録的に高く、北日本と沖縄・奄美で高かった。
- ②降水量は、台風等の影響で各地で大雨や大荒れとなり、北・東日本太平洋側と沖縄・奄美の降水量は多く、一方、北・東日本日本海側では少なく、西日本では平年並だった。
- ③日照時間は、北・西日本太平洋側でかなり多く、北・西日本日本海側と東日本で多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

（気象庁ホームページ 報道発表資料より抜粋）